

誰かのために、そして未来の自分のために

名古屋市立南陽中学校3年 皆本 結友

私が初めて税に興味を持ったのは、テレビで災害のニュースを見たときでした。今私たちが住んでいる日本は自然災害が非常に多い国だということもあり、正直ニュースを見て驚くことは少ないと思います。しかし、中学生になったばかりの頃の私は、画面を見てとても驚いたことがありました。それは、「復興特別所得税」という税があるということです。東日本大震災からの復興。今から十年以上前の災害なのに、まだ復興に向けて一生懸命な人がいる。当たり前かもしれないこの事実、素晴らしいな、と心から思います。一部の人は「復興特別所得税」を良く思わないことでしょう。中学三年生である今の自分は源泉徴収義務者ではないため、この税を納められませんが、遠く離れたところで苦しめてつらい思いをする方々の役に立てるので、とても大切なものだと考えています。

また、私は「復興特別所得税」が未来の自分たちを助ける日が来るのではないか、と思います。現在は東日本大震災復興のために納められている税ですが、今後起きる大震災で同じような事になると考えるならば、愛知県民が最も恐れているであろう災害「南海トラフ巨大地震」が起こったときに税のおかげで住む場所が見つかったり、道がすぐに整備されたりした、ということもあり得るのではないのでしょうか。この税は顔も名前も知らぬ誰かのために存在します。ですが、税によって、救われた誰かが「今度は自分が他人の役に立ちたい」と考える可能性もありますよね。そのような人々が自分たちが困ったときに手助けをしてくれたら、きっかけを作った税に感謝した上でまた未来の誰かのために役立とうとするとします。このようなことがくり返されていけば、ある時もう一度思うはずですが、今自分が人助けをしているのは税のおかげなのかもしれない」と。

現実に税で救われる人がどれほどいるかはわかりませんが、物語のようになるとは限りません。それでも、税があることで誰かを笑顔にできるのなら、納税は大切な義務だと思います。まだ働いていないからこそ震災復興のために増税されたことを前向きに考えられるのかもしれませんが。中学生にとって「復興特別所得税」は身近なものではないので、仕組みを理解することは難しかったというのも事実です。しかしながら、この税を知ってから改めて税の大切さを学びました。だから、私はもっと多くの人にこの税を知ってほしいと思いますし、納税で救われる誰かを想像してみたいです。今の私ができることはとても少ないですが、自分に可能なことは何か考えて行動していきたいと思いません。誰かのために、そして未来の自分のために。